

令和 7 年度横手市廃棄物減量等推進審議会 議事録

日時：令和 8 年 1 月 16 日（金）

午後 3:00 ～ 午後 4:00

場所：クリーンプラザよこて 2 階研修室

出席者：審議委員

- 1 番：笠井 みち子
- 3 番：大坂 陽子
- 4 番：塩田 恵
- 5 番：鷹田 芳子
- 6 番：照井 敦子
- 9 番：関口 悦雄
- 11 番：熊谷 昇
- 12 番：照井 俊男
- 13 番：佐藤 哲也
- 15 番：山本 眞喜子
- 16 番：佐藤 政実
- 17 番：上田 卓巳
- 18 番：近藤 一之

事務局：

- 市民福祉部長：大坂 智実
- 生活環境課長：高橋 道明
- 生活環境課廃棄物対策係長：佐々木 友和
- 生活環境課廃棄物対策係 主査：五十嵐 秀則
- 生活環境課廃棄物対策係 主任：荒関 崇宏
- 生活環境課廃棄物対策係 主事：長澤 優樹

欠席者：

- 2 番：片倉 由美子
 - 7 番：須藤 喜和子
 - 8 番：小林 由久
 - 10 番：佐々木 正樹
 - 14 番：遠藤 宗一郎
-

1. 開会

事務局より、定足数の確認および開会が宣言された。

2. あいさつ

- ・ 市民福祉部長 大坂：クリーンプラザよこてでも発生したりチウムイオン電池の発火事故に触れ、適正な排出を呼びかけた。第2次計画が令和7年度で終了するため、今後10年間の指針となる「第3次横手市一般廃棄物処理基本計画案」について委員の意見を求めた。
- ・ 上田会長：委員へ出席の謝辞を述べ、ごみの減量・資源化の推進に向けた活発な意見交換を求めた。

3. 議事録署名委員の選任

会長より、今回の議事録署名委員として以下の2名が指名・選出された。

- ・ 11番:熊谷 昇 委員
- ・ 12番:照井 俊男 委員

4. 協議

(1) 第3次横手市一般廃棄物処理基本計画案について

事務局より、計画案の概要および生活排水処理計画について説明が行われた。

- ・ 計画の性格：令和8年度から17年度までの10年間を対象とし、5年目に中間評価を行う。
- ・ ごみ処理の現状：本市の1人1日あたりのごみ排出量は885g(令和5年度)で減少傾向にあるが、依然として全国平均を上回っている。
- ・ 目標値：令和17年度までに家庭ごみ排出量を12%削減することを目指す。
- ・ 生活排水処理(施設統合)：下水道普及率は52.4%であり、加入促進を継続する。また、施設の老朽化や人口減少に伴い、「雄物川衛生センター」を「横手衛生センター」へ統合・集約化する計画である。

(2) プラスチック資源循環促進法への対応と新施設整備

事務局より、法改正に伴う新たな取り組みが報告された。

- ・ 再商品化保管施設：クリーンプラザよこて敷地内に建設中で、令和9年3月完成予定。
- ・ スケジュール：令和9年4月から特定エリアで実証実験を開始し、10月から「製品プラスチック」の本格回収を開始する予定。

(3) 質疑応答および意見交換

- ① 製品プラスチックの定義と分別の難しさ(笠井みち子委員)
 - 質問:「製品プラスチック」という名称では市民が判断しにくいのではないか。
 - 回答:「プラマーク」付きは「容器包装」、プラスチック 100%の製品(バケツ等)を「製品プラスチック」と定義する。非常に複雑なため、イラストを多用したチラシを作成し周知を徹底する。
- ② 回収可能なサイズ規定と収集方法(佐藤哲也委員)
 - 質問:回収対象となる大きさに制限はあるのか。また、現在の指定袋は使用できるか。
 - 回答:基本は「30cm 角程度」を想定しているが、新施設では理論上 50cm 角まで処理可能。実証実験を通じて最終的なサイズ規定を決定する。収集袋については、現在容器包装プラスチックに使用している指定袋(透明)に出す方向で調整中である。
- ③ 収集業者との連携(熊谷昇委員)
 - 質問:収集業者への周知や連携状況はどうか。
 - 回答:環境協議会を通じて業者への情報提供を開始しており、試行期間を設けて現場の意見を吸い上げながら体制を整える。
- ④ 衣装ケース等の大型製品への対応(照井敦子委員)
 - 質問:衣装ケースのような大きなものも出すことができるのか。
 - 回答:衣装ケース等の大型製品は、そのままの処理は困難な可能性がある。ただし、市民が自ら 30cm~50cm 角程度に裁断・解体して指定袋に入れれば、ゴミとして出すことは可能である。最終的な受入基準は実証実験の結果を待って判断する。
- ⑤ ごみ排出量の減少要因について(関口悦雄委員)
 - 質問:昨今の排出量の減少は、物価高騰の影響によるものか。
 - 回答:排出量の減少には様々な要因が考えられ、物価高による消費動向の変化も一因の可能性がある。次回の 3 月会議にて、具体的な排出推移などの分析データを提示し改めて説明する。
- ⑥ 今後の環境施策(5R・8R)の方向性(笠井みち子委員)
 - 質問:3R に留まらない、より高度な環境施策(5R・8R)の考え方について。
 - 回答:3R に「リフューズ(断る)」「リペア(修理)」を加えた 5R や、8R の考え方も踏まえ、循環型社会の実現に向けた情報発信を強化する。

5. その他

事務局より、今後のパブリックコメント実施予定と、次回 3 月の審議会にて最終的な協議を行う旨が伝えられた。

6. 閉会

以上をもって、令和 7 年度第 1 回審議会を終了した。

令和 8 年 / 月 27 日

議事録署名委員: 熊谷 昇

議事録署名委員: 照井俊男